

JAL愛媛争議団を支える会

ニュース



勝利解決の日まで
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたかう愛媛争議団を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館 3F 愛媛労連内
松山市三番町 8-10-2



2025.5.1 愛媛中央センター（城山公園）

私も
応援します



あなたとともに♪

国鉄四国トレインズ 山岡 多江 (アコーディオン奏者)

先日（4月25日）のトランジット・コンサートは、オンライン視聴で参加しました。歌と組合旗、団体旗が並んだ場面では、闘い続けて15年目、支援者としても一日も早い全面解決を願わざにはいられませんでした。

争議団のことを知ったのは「愛媛のうたごえ協議会」で応援・支援している集会に歌声で参加したことがきっかけでした。

た。愛媛に当事者が2名いて、国やJALに対して全面解決を求めて闘いを続け10年が経過している時でした。

その後は大会や集会で顔を合わせる事が多くあり、訴える姿を見る度に歌で応援しようとトレインズで話し合い創作曲を作ることにしました。詩ができる時点でお二人に意見を聞き「私たちの思いや言葉が表

現されている」と感想を聞くまで手直しをし、やっと創作曲「あなたとともに」が出来上がりました。

「うたごえは闘いとともに」のスローガンのもと、闘って働く人の思いや言葉を紡ぎ「歌」の力を信じて「あなたとともに」「勝利の朝を信じて」全面解決、早期解決を目指して応援・支援を続けたいと思います。

争議15年目となると何を書こうか筆に詰まる。読み手も書き手も争議の事ばかりでは飽きてくる。かつて争議団集会に参加された法学者の故奥平康弘氏

（九条の会呼びかけ人の一
人）は「このような解雇が起
きるのは日本社会の文化の問
題だ」と発言され溜飲が下が
った。憲法違反の不当解雇が

巧みで易々と認められてしま
った。しかも、これを弾劾す
る仕組みが日本はない。労
働者を救うはずの労働委員会
も世界の人権基準から大き
く遅れた国内法でしか判断しな

世界で唯一腐敗しなかつた大統領 ペペ・ムヒカ逝く

松山市在住 林 恵美
JAL不当解雇撤回争議団 (JHU)

2025年5月20日

い。

人権に対する文化が育つてない日本社会では労働者もモノと同じように使い捨てられてしまう。

ムヒカの哲学

先日（5月13日）89歳でこの世を去ったウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏は「世界で最も貧しい大統領」と言われたが、グローバリズムに微塵も染まらず、眞の豊かさを体現された傑出した政治家だつた。全てを包み込むような穏やかな笑みと深い眼差し。その信念は最後まで失う事はなかつた。

5年前に公開されたドキュ



メンタリー映画では、日本の歴史や文化にも詳しいことが紹介されていて驚いた。貧しかつた少年時代、近所に住んでいた日本人達から造園業を学び、花を育て家計の足しにしていたそうだ。

大統領に就任してからも公邸を辞退し、郊外の質素な住宅で暮らし、自家菜園で花や野菜を育て、愛車のビートル（1987年製、時価18万円）であちこちに出没し市民たちと気さくに会話をした。

報酬の大部分を貧しい人たちに寄付し自分はひと月1000ドルで暮らした。信条は常に「国のリーダーは国民と同じ暮らしをするべきだ」「金持ちは政治家になつてはいけない」だった。

ムヒカ氏の遺した言葉と行動は「人間らしく生きるとは何か」を問い合わせ続ける。

彼の「質素の哲学」「清貧の思想」は、消費社会と格差の拡大が際限なく進む現代のアンチテーゼとして鋭く突き刺さる。

2016年に来日し大学生に講演した際「貧しい人とは物

を持つていない人ではなく、欲望の尽きない人の事だ。日本人は幸せなのか？」と問うた。「日本の子どもたちよ、急いで大人にならなくていい。子どもであることを楽しみなさい」とも。

珠玉の言葉は国連（2012年リオ会議）でも万雷の拍手に包まれた。

「私達は発展するために生まれて来たのではない。幸せになるために生まれてきたのだ」「人生で最も重要なのは勝つことではなく、歩み続ける事だ」

最晩年の病床では「人類の幸福のために戦わなければなりません。富だけではない。人生に意味を与えないば」と記者に語った。亡くなつても語り継がれる精神を噛みしめたい。



今年もやります！

JAL 不当解雇撤回+最賃¥1500実現四国キャラバン6月2~5日

愛媛は最終日6月5日

- ・15:00～大街道口宣伝
- ・16:30～報告集会@教育会館2Fホール

皆さまのご支援をお願い致します